

## ミヤジマトンボの保護活動について

広島県自然環境課



## ミヤジマトンボのおかれた状況

- 国内での生息地は宮島島内のみ
- 環境省・広島県RDB 絶滅危惧 I 類
- 自然公園法  
瀬戸内海国立公園特別地区の指定動物
- 広島県野生生物の種の保護に関する条例  
特定野生生物種 捕獲禁止

## 発見等の経緯

- 1936年 広島工業高校 結城次郎教諭が発見。
- 1955年 広島大学医学部 澤野十蔵博士によって再発見。
- 1957年 朝比奈正二郎博士らの研究により1911年に香港で見つかったトンボと同種であることが判明
- 1995年 ミヤジマトンボ保護管理計画策定
- 2005年 生息地の環境悪化が危惧され、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会が設立

## ミヤジマトンボ保護管理協議会構成員

- 広島虫の会会員
- 日本蜻蛉学会会員
- 植物専門家
- 広島県野生生物保護推進員
- 海洋工学専門家
- 広島市森林公園昆虫館
- 廿日市市教育委員会文化スポーツ課
- 広島森林管理署業務課
- 環境省中国四国地方環境事務所広島事務所
- 広島県環境県民局自然環境課(事務局)

## ミヤジマトンボの生態

- 形態的特長 体長は5cmあまり、シオカラトンボに良く似ている
- 生息地 他のトンボの幼虫が生息できない汽水域の湿地。
- 成虫生息確認数(環境省調査)

| 年   | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 確認数 | 91   | 217  | 342  | 163  | 325  |

- 生息地:国内では宮島のみ

## 主な管理活動

- 1 生息地の環境整備
- 2 幼虫の飼育(生息域外保全)
- 3 普及啓発活動
- 4 新たな生息地の確保

## 1 生息地管理



- 台風や大潮で塞がれた水路を補修
- 協議会関係者やパークボランティアの協力

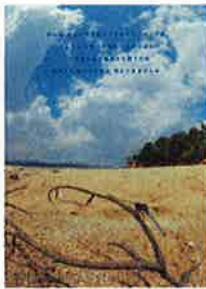
## 2 生息域外保全



県の委託事業により広島市昆虫館で幼虫を飼育

## 3 普及啓発活動

啓発用下敷き



## 4 新たな生息地の確保

- 普及啓発のため、公開可能な新しい生息地を整備



## 課題

- 人が管理を続けなければ、生息環境を維持できない。
- 常時監視できない場所にあるため、生息地を公開することができず、一般ボランティアの受け入れ、普及啓発のためのPRが困難。